



# もっと知りたい地域のこと

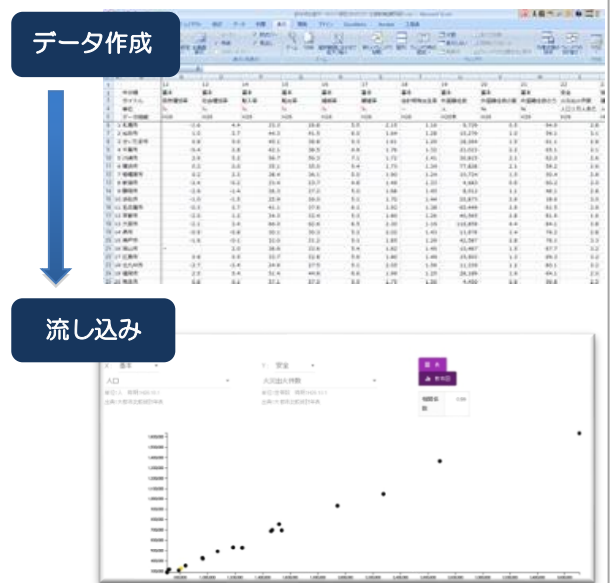
～協働で進める地域の情報発信のあり方～

## 【チームについて】

- Code for Niigata は、「コードを紡いで、地域を繋ぐ」をキーワードに、様々な世代、様々な業界・業種の仲間とともに「新潟をもっと楽しく、もっと住みやすい街にするために、ICTを活用してアプリケーションを作ったりウェブサービスを提供したりすることを目的とする有志の集まりです。
- 「チャレンジ!!オープンガバナンス 2016」を、取り組むべき社会課題の再整理と、これまで接点のなかった専門家の皆さん（審査員）からの評価・助言をいただける機会としてとらえ、参加を決めました。
- 取り組みの方向性や内容について精度を上げるため、「都市の魅力発信」という同じテーマで、新潟大学経済学部大串ゼミの学生たちからも考察・レビューをもらい、今後の考え方に反映させました。

## 【アイデア1】データ活用のためのツール提供

- ウェブアプリ「**相関をみる**」は、客観データにもとづく都市の真の実力を示すとともに、都市の特徴や優位性が何に基づいているのかを知る手がかりを提供します。
- 現時点では、政令市20市について、固定の120の指標データに基づき、相関係数の出力および相関図の自動生成を行います。今後は新規データを自由に流し込んで、様々なデータの相関分析ができるように進化させます。
- 現在 Web 上で公開されています → [bit.ly/cog16nii](http://bit.ly/cog16nii)
- Code for Niigata がウェブアプリを作成し、流し込むデータの作成協力を新潟市が行いました。



## 【アイデア2】生活にすぐ役立つ情報の提供

- 「**引っ越しメーター**（右図上）」は、“他の政令市から引っ越してくる”想定で、もと住んでいた都市と新潟市とを、データに基づいた“偏差値”と“絶対値”で比較するものです。現時点では、新潟市（固定）とそれ以外の政令市について、6つの分野・24の項目で比較を行っていますが、今後は、①任意の2都市比較、②任意の項目（項目数は拡大）での比較、③レーダーチャートなど他の見せ方での比較などができるように進化させます。
- 現在 Web 上で公開されています → [bit.ly/cog16nii](http://bit.ly/cog16nii)
- 【今後の取り組み】リアルな場面で便利に使えるさまざまな**地図情報**（右図下）を、マッピングパーティーなどのイベントをつづじた協働のアクティビティで整備し、公開します。また、**新潟版ローカル wiki**を立ち上げ、多くの人々の参画を得て運用していきます。



## 一緒にやりませんか!?

Code for Niigata では、これらの取り組みをさらに継続的に発展させていこうと考えています。わたしたちの取り組みに関わってみたいという団体とのコラボレーションを希望しています。

一緒にやってみようか、という団体の方、まずはご連絡をお願いします。

[codeforniigata@gmail.com](mailto:codeforniigata@gmail.com)

<http://www.codeforniigata.org/>

 [code4niigata](#)  [@code4niigata](#)

## 【課題の再定義と目標】 「魅力発信力のパワーアップ」という課題に対して・・・

- 課題の見直し（「魅力発信力」の前提はどのようなものでなければならないか）
  - わかりやすく、興味をひく、楽しいものこと
  - 参加のハードルが低い・インセンティブがあること
  - リテラシーが向上する（関わりをつうじて能力が向上する）こと
  - 関心、意欲、能力その他リソースと合致する（無理はしない）こと
  - 持続可能な取り組みであること
- 実際の課題 = 目標とすべき内容
  - 都市の魅力の発掘と深堀り（新たに知る・ストーリーを見出す）
  - 拡げる力のエンパワメント（市民・行政が自分でできることを増やす）
  - インナーブランディング（もっと好きになる）

## 【目標と取り組みの関係】 2016年の4ヶ月間は助走期間。継続的な取り組みとする。

取り組み \ 目標	都市の魅力の発掘と深堀り (新たに知る・ストーリーを見出す)	拡げる力のエンパワメント (市民・行政が自分でできることを増やす)	インナーブランディング (もっと好きになる)
「相関を見る」	都市に関する思い込みの補正 都市の真価の発見と再評価	新規データの作成インセンティブ→データ作成スキルの向上 データの見せ方の工夫促進 データを見る目の涵養（都市の何を語るか）	「知ること」 + 「参画すること」
「引越しメーター」			= 都市像を “自分ごと” として確立する ⇒もっと好きになる ⇒「好き」と語り始める
「地図情報の整備」	マッピングパーティー時のまち歩きなど、イベント・アクティビティにおけるまちの価値の再発見	マップ作成技術の習得・向上 ニーズにあった設計手法の獲得	
「ローカル wiki」	属人知の共有をつうじた発見	自身の中にある知識・情報の発信 (共有化) 方法の獲得	

## 【行政からのデータの提供状況】

1. エントリー当初は、市公式ホームページから参照可能なデータについてリンクで表示
2. ウェブアプリ「相関をみる」の提案を受け、政令市 20 都市 120 項目のデータ作成協力。

## 【連携状況の重点：行政側から心がけたこと】

1. **相手のフィールドに入っていく**  
市民/学生の主体性、のびのびとした自由な発想の妨げにならないように、普段どりの場でコミュニケーションをとった。
2. **ルールを敷かない**  
行政の手厚いお膳立てで進捗やすむ方向をコントロールしたり、普段と違うことをお願いしたりすることをせず、主役を市民/学生とし、サポート役（意図を説明する、データを提供するなど）にまわった。
3. **“つなぎ役”を頑張る**  
新しい協働相手と、新しい取り組みを始めるにあたり、互いの価値を理解してもらうために、市民と行政とを仲立ちする役割が重要 → 今後、庁内での水平展開へ